

令和3年度 高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施に係る 企画・調整担当者研修会開催レポート

開催日・会場：令和3年10月22日（金） さいたま共済会館 504 会議室

一体的実施の取組を実施している市町の企画・調整担当の医療専門職を対象とし、ネットワーク構築と事業評価について理解を深めることを目的に、埼玉県保健医療部国保医療課・埼玉県国民健康保険団体連合会と共催で開催したところ、33市町中24市町の職員が参加しました。

○情報交換 『事業実施状況や課題等について』



事業実施形態別に、実施状況などについて情報交換を行いました。「委託先を見つけるのが大変」「コロナでポピュレーションが遅れている」など、皆さん日頃の悩みなどを口にしていました。一体的実施に関わる専門職間の情報交換を行う機会が少ないためか、大変な盛り上がりでした。



情報交換・グループワークの様子

○PDCA サイクルの振り返りとグループワーク 『事業評価指標について』

後半は、文京学院大学の米澤純子教授に PDCA サイクルの話題提供をいただき、その後事業評価指標について広域連合案をもとに各グループでハイリスク・ポピュレーション事業を1つずつ検討しました。評価の視点などの理解が深まり、今後の事業企画に役立てることができるのではないのでしょうか。



文京学院大学 米澤純子教授

一体的実施は、地域の高齢者の介護予防・健康づくりのための制度です。広域連合では、市町村や県国保医療課、国保連合会とも連携し、一体的実施を推進してまいります。

参加者の声（アンケートから抜粋（要約））

- 他の市町の担当者の話を聞くことで、自分の自治体だけで考えるよりも、新たな考えや情報が得ることができた。
- 一体的実施に取り組んでいる市町との情報交換だったので、“あるある”ということが多く、自分たちの取組を振り返る機会となった。
- 評価の視点を踏まえて、アンケートや後期高齢者の質問票等の活用についても考える機会となった。
- PDCA サイクルや評価指標について理解が深まり、事業を振り返ることができた。
- 高齢者の気持ちや行動の変化も大切な指標だということに気づいた。